

令和2年度 長野市連携中枢都市圏ビジョン懇談会 要旨

【開催日時等】

- 日 時：令和2年7月28日（火）15:00～17:05
- 場 所：長野市役所第一庁舎7階 第一・二委員会室
- 出席者：別紙名簿のとおり

【懇談会概要】

- 1 開会（酒井企画政策部長）
- 2 あいさつ（樋口副市長）
- 3 懇談（座長）
 - (1) 2019年度（令和元年度）連携事業に係る成果指標（K P I）の評価・検証について
 - (2) 取組の成果と今後の課題について
 - (3) 講演
「現経済情勢を、バックキャストिंगによって未来に向けて変革する」
長野市戦略マネージャー 井上 葉子氏
 - (4) 意見交換
- 4 閉会

あいさつ（座長：樋口長野市副市長）

本日は大変お忙しい中、ご出席頂きまして誠にありがとうございます。

本年度は長野地域スクラムビジョンを掲げて5年になる。長野市は、(昨年度)戦略マネージャーとして4名の方を任命した。そのうちのお一人である井上氏に、この後ご講演をお願いしている。

(長野市は)2040年を見据え、バックキャストिंगの考え方で、事業を開始したところである。2040年の大きな目標が所得倍増であり、現実としてはハードルが高い部分があるが、夢を持って頑張っていくという姿勢が大事である。

来年度から新しいビジョンになるので、皆様から忌憚のないご意見を頂戴し、それを反映しながら、より良いビジョンを策定していきたいと思っているのでよろしく願いしたい。

2019年度（令和元年度）連携事業に係る成果指標（K P I）の評価・検証について

事務局（青木企画課長）より、資料3を説明

《質疑応答》

なし

取組の成果と今後の課題について

事務局（青木企画課長）より、資料4を説明

《質疑応答》

なし

長期戦略2040について

事務局（青木企画課長）より、資料5を説明

《質疑応答》

なし

講演

「現経済情勢を、バックキャストイングによって未来に向けて変革する」

長野市戦略マネージャー 井上 葉子氏

《質疑応答》

中村 国立大学法人信州大学理事・副学長

デジタルトランスフォーメーションが爆発的に進む中で、バックキャストイングの時間軸の設定の仕方、今の時代であれば、どのくらいの期間でバックキャストイングを考えればよいのかを教えてください。

井上 長野市戦略マネージャー

時間軸は置かれている組織によって違って良い。企業であれば産業のプロセスごとに時間軸が異なるので企業の業態によっても違う。行政であれば、かなり時間が掛かるので、短い時間軸はないと考える。20年という置き方は、海外の事例からも多く見られる。会津若松市も10年から20年を見て、10年ごとに区切っていると思われる。

この時代、長期間で設定したとしても、目指す姿はブレないが、それに対してのやり方はどんどん変化していくので、変えて行けば良い。少し前までは20年後の姿に目標をおいて、5年間の計画を見直していくが多かった。見直しはもう少し短い期間が良いのではと思うが、色々な組み合わせで数字を見ていく必要がある。

中村 国立大学法人信州大学理事・副学長

バックキャストिंगで考えながら、マイルストーンを置いてステージごとに検証をしていくことか。

井上 長野市戦略マネージャー

そのとおりである。ただし、「必ず繋がっている」ということである。

意見交換

北村 長野商工会議所会頭

自分が生まれたところで活躍できるような場を作らなければならないというのが、本日全体を通じてのテーマである。皆さんのお知恵を拝借しながら、できる限り具現化できるようにしていきたい。

春原 須坂商工会議所専務理事

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、新しい生活様式・新しい働き方の改革が求められている。地域でのリモート化の推進、感染拡大対策など、配慮・連携ができる部分があれば是非取り組んでいきたい。

また、災害ごみや避難施設の受け入れなどについて、地域の連携力が発揮されても良いのではないかと考える。

樋口 長野市副市長

災害ごみなどについては、「長野・北信地域市町村副市長村長会議」において課題となっており、広域的に長野県も含めて取り組んでいく。

武井 千曲商工会議所会頭

若者が地域から離れる原因としては、職の問題が大きい。新たな産業を創出することで、地域の魅力づくりに繋がっていくと思う。

また、コロナ禍で先行きが見えない中、人間関係が阻害されてしまうことを危惧している。人間らしさを失わないような情操教育も必要になってくるのではないかとと思う。

関戸 坂城町商工会会長

若い経営者たちは、ものづくりプラスアルファの考え方に変わってきている。

長野圏域は自然に恵まれた地域で、それぞれ特色を活かしていければ良い。

「やりがいのある仕事」が「高付加価値な仕事」とは限らない。精神的に充足できる仕事を創造できる社会づくりが必要である。

鈴木 ながの観光コンベンションビューロー理事長

観光面は苦境に立たされているが、ピンチをチャンスに変えていくことが重要である。

観光施設については各市町村が力を入れて整備し、誘客などのソフト面では一本化して、2040年に向けて若者をターゲットにした観光戦略を進める必要がある。

中村 信州大学理事・副学長

「圏域全体の経済成長」分野の要改善8指標の多くが、信州大学が果たすべき役割と感じている。残り1年で順調に変えていきたい。

樋口 長野市副市長

重要なパートナーとして協力していきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

宮沢 八十二銀行営業渉外部長

戦略については何らかの違いを作っていく限り目立たない。例えば長野市に経営資源などを傾斜配分し、長野市が圧倒的に勝つことによって周辺市町村に波及させ、一緒に成長していくことも考え方としてある。

盛田 連合長野長野地域協議会議長

若者や労働者に向けた良質な雇用の場が提供されることが一番である。会社や組織などが連携して知恵を出し、長期的な目標に向かって進むことができれば良い。

山口 鬼無里地区住民自治協議会相談役

自然以外の特色を打ち出すのが難しく、鬼無里小中学校の生徒が増えていないのが現状である。移住・定住促進事業を活用し、生徒の増加に繋げてほしい。

中島 長野広域連合特別養護老人ホーム須坂荘所長

「保育の広域利用の拡大事業」は子どもを産み育てやすい環境づくりに大きな役割を果たしているが、連携市町村の利用者数が少ない状況である。今の子育て世代はインターネットでの情報収集がほとんどであるが、未だにホームページで情報周知がされていない市町村もある。最新情報を連携市町村内で統一して周知し、安心して子育てができる環境の構築に一層努めてほしい。

宮澤 一般社団法人長野県子ども会育成連合会

少子化のためリーダー研修会に子どもが集まりにくい。長野圏域の中で地域性や特色のあるものにしていきたい。

情報・通信インフラの基盤整備など、子どもたちに居てもらい、帰ってくるような魅力的な体制づくりや環境整備が必要であり、特徴のある産業の創出に取り組んで欲しい。

市川 小布施文化観光協会副会長

通信インフラの整備や規制緩和など、行政ができることはそれほど多くない。

20～30代前半の職員を前面に出していく必要がある。

中村 信州高山村観光協会会長

人口流出が進むとやれることもできなくなる。(人口流出を) どう止めていくかを考えているが、考え方を変えて、新たに取り組んでいきたい。

赤松 長野森林組合森林づくり推進課長

石油からバイオマス木材に切り替えるなど、行政が決断すればできることに大いに期待している。20年後のあるべき姿は木で作るという意思表示がされれば、益々進むのではないかと考える。

古屋 小川村観光協会副会長

地域おこし協力隊の皆様が小川村に残ってくれている。自分たちでは気付かなかったような作業を始めてくれている若者もいる。そういった若者の発想などを地域が支えていければ良い。(小川村の高齢者が) 長野市に200円で行けるようになり、ありがたい事業だと思っている。防災についても協力していく必要がある。

古木 一般社団法人飯綱町観光協会会長

民間だと社長1人が10年、20年かけてその価値を創り込んでいく。これを行政に適応するというのが課題になってくるのではないのかなと思う。その課題を乗り越えると本当の強みになってくるのではないかなと思う。

樋口 長野市副市長

連携中枢都市としての長野市の役割に対する期待も十分に受けとめ、地域を大切にしながら支えていきたい。皆様は大事なパートナーであり、大事なプレイヤーだと思っているので今後もよろしくお願ひしたい。

この取り組みを通じて、地域として発展している場所だと、全国的にも注目されるような取組にしていきたいと思っているのでご協力頂きたい。

以上で懇談会を終了とさせていただきます。ご協力に感謝申し上げます。

以上